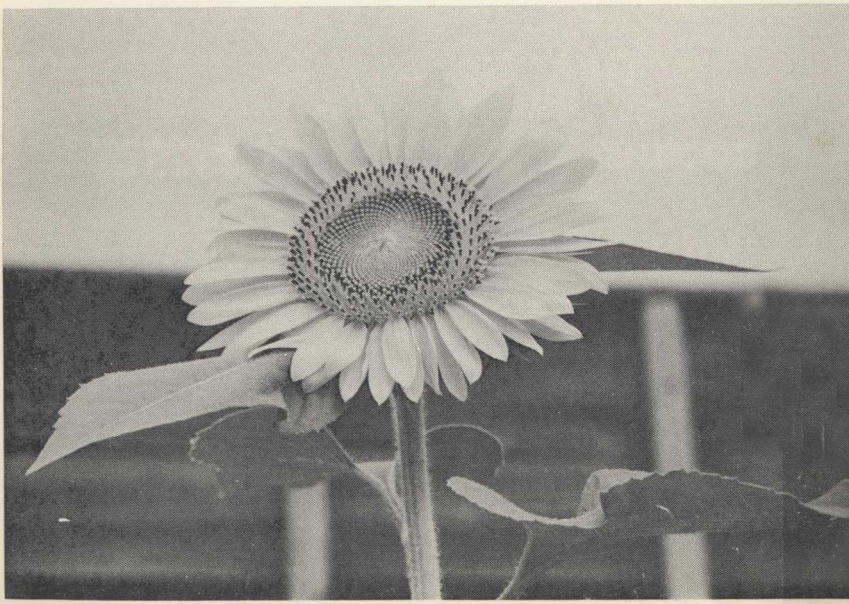
俳句現代派選集 9

日傘

西沢洋子



フォト・伊丹三樹彦

略歴

西沢洋子（にしざわ・ようこ）
大正8年兵庫県西宮市に生れる
昭和12年兵庫県立第一神戸高等女学校卒業
昭和40年青玄俳句会入会伊丹三樹彦に師事
昭和43年青玄同人
昭和47年句集「頬杖」
昭和55年青玄無鑑査同人
昭和55年青玄賞受賞
昭和57年現代俳句協会会員

俳句現代派選集　9

句集　日傘

昭和58年5月10日発行

著者　西沢洋子

〒666 兵庫県川西市南花屋敷4-8-13
電話 0727-59-1034

発行人　俳句現代派選集企画部
代表　津根元　潮

印　刷　大洋印刷産業株式会社

発行所　青玄三光会出版部
〒130　東京都墨田区両国3—24—7
ヴィラ・ロイヤル601津根元方
電話03—631—6106
郵便振替口座　東京7-27590

頒価1,200円　送料200円

句集

日傘

西沢洋子

序詞

伊丹三樹彦

俳句の名において
不易を
現代派の名において
流行を
志す
仲間たちの
詩華集を
陸続として
世に送る

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

目次

序詞　伊丹三樹彦　1
第一部〈懐炉〉昭和47年～52年　5
第二部〈留袖〉昭和52年～56年　37
第三部〈初蝶〉昭和56年～57年　85
伊丹三樹彦「青玄秀句について」抄　102
あとがき　110
カバー写真〈但馬にて〉・伊丹三樹彦

第一部〈懐炉〉

昭和47年—52年

門灯まだ　そんな時好き　沈丁花

雛明り　母の寝息のおさなくて

逝く春の雨音　子離れにも馴れて

苺洗う　指に脂気なくなって

新ジャガころぶ　ついに夫とだけの夕餉

植木市の夕ぐれ　ゆるく帯結んで

父の葬後の　洗えばすぐに乾く髪

母を連れ出す「テトラポットよ」「浜木綿よ」

喪疲れの日傘で　緋鯉寄せている

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

風が育てる蔦　ナイターの灯も消えて

糸切歯もう使えません　ベゴニヤ咲く

鴉反響　万博跡は秋でした

薬湯を吹けば　母似の影絵となる

老犬もう鳴くころ　穂草の冷えだすころ

風邪に弱いうなじ　茶の花ぽっと咲いて

膝うすくなった　朝寒の猫をゆるし

目覚めては　夜半の鳩きく　父亡い冬

銀行　師走　風船ぱあんと割れました

雑煮にる　孫の帽より小さい鍋

寒木瓜の風にかわいて　茶事のふきん

ひとり居の母の髪梳く　指　春寒

球場　下萌　熔接火花とび散って

ポストゆずってくれた青年　春　夕ぐれ

媒酌終え　ゆるい疲れの春落葉

眼鏡替えて　車窓　ぽっかり蓮の花

流れあれば顔洗う夫　蟬しぐれ

コスモスなげ入れて風湧く　誕生月

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.